

『日本の野鳥カレンダー2020』

撮影者コメント

作者の撮影コメントやエピソードを掲載しています。カレンダーの写真と一緒に楽しみください。



オジロワシ

学名: *Haliaeetus albicilla*

英名: White-tailed Eagle

表紙

流氷観光船からの撮影は運があります。立ち位置や船の航行によつては、シャッターチャンスに逆光になることもあり、また、背景が氷だけということもあります。この時は、聳えるような流氷にオジロワシが止まり、背景にはうっすらと雪が残る山肌が入り、雰囲気のある写真になったのではないかと思います。

■ 撮影 宮沢 安二郎

■ 撮影場所 北海道 羅臼町



ヒレンジャク

学名: *Bombycilla japonica*

英名: Japanese Waxwing

1月

近隣に広大な森林公園があります。春秋冬に十数年通い続けています。春は、夏鳥が寄り秋は、草木の果実を食べに寄りまた冬は、ナナカマド他の果実に冬鳥が付いてくれます。このヒレンジャクも数本のカンボク実の数羽が良い所で食べ始めてくれた。

■ 撮影 上戸 鉄雄

■ 撮影場所 北海道 札幌市



ジョウビタキ

学名: *Phoenicurus auroreus*

英名: Daurian Redstart

2月

ピンク色の枝垂れ梅が咲き始めると梅林がパーツと華やぎ心が浮き浮きしてきます。隣には林があり小鳥が見え隠れしている中でジョウビタキはヒッ、ヒッと鳴きながら枝から枝へ飛びかい姿を見せてくれます。時々ふつくと丸まって枝に止まる姿はとても可愛く私を笑顔にさせてくれます。

■ 撮影 矢田 和子

■ 撮影場所 愛知県豊田市



ベニヒワ

学名: *Carduelis flammea*

英名: Common Redpoll

3月

首都圏も桜の開花の音が聞こえる3月21日のこと。折しも爆弾低気圧が東日本に到来、結果首都圏にも雪をもたらした日でした。ベニヒワの想う光景を探し、通った雪の高原も春の兆しでしたが、天気予報で迷わず高原へ走っていました。あっという間に休耕地を白く染め、ベニヒワの群れが待宵草に群がります。

■ 撮影 井坂 瑞

■ 撮影場所 長野県上水内



オオルリ

学名: *Cyanoptila cyanomelana*

英名: Blue-and-white Flycatcher

4月

山間の静かな谷に枝垂桜が2本、毎年きれいな花を咲かせています。この木に夏鳥が来てくれるのを期待して時々見に行っていました。通い始めて5年目の春、満開の花の中飛び回る1羽の青い鳥。1日だけの出会いでしたが、幸せな時間を運んでくれました。

■ 撮影 深瀬 伸介

■ 撮影場所 京都府 長岡京



セッカ

学名: *Cisticola juncidis*

英名: Zitting Cisticola

5月

5月中旬、麦畑の上をセッカがヒヒイ、チャチャと鳴きながら、せわしなく飛び回っていた。時々、麦の穂先にとまるのだから、自重で沈んで、なかなか全身が見えない。粘って待っていると、やっと全身が見えるところにとまってくれた。半逆光で、美しく輝いて見えた。身近な地味な鳥だが、こんなにも魅力的に撮れたことに感動した。

■ 撮影 松廣 浩二

■ 撮影場所 愛媛県 伊予郡



クロツグミ

学名: *Turdus cardis*

英名: Japanese Thrush

6月

ここに鳥が止まってくれたらいいな～と、鳥の撮影をしている方なら、そのようなご経験をお持ちかと思います。この写真も、そう願って待っていたら、なんとクロツグミが飛んできてくれました。急いでカメラの位置をちょっと低くして、手前の草を前ボケにしてシャッターを押しました。

■ 撮影 宮沢 安二郎

■ 撮影場所 北海道 千歳市



アカモズ

学名: *Lanius cristatus*

英名: Brown Shrike

7月

ここでアカモズを観察して何年になるだろうか？年により渡来数に差がありますが、毎年見られます。この年は、初めて近くで繁殖行動が見られました。ゆっくり遠くから時間をかけて観察しました。三週間以上毎日観察続けて、四羽の雛が無事巣立ちを確認する事が出来ました。年々周りの環境変化が悪化して来ている中で来季はどうなるか？

■ 撮影 上戸 鉄雄

■ 撮影場所 北海道 小樽市



8 月

小笠原航路での海鳥観察の楽しみの一つにカツオドリとの出会いがあります。また船と並走しながら飛ぶカツオドリの中には、時々、一際白く、飛翔力のあるカツオドリが現れます。それがこのアカアシカツオドリです。海面に向かってダイナミックにトビウオの狩りをする姿を一度でも見たら、もう魅力に取りつかれてしまいます。特に南硫黄島辺りで、この鳥の姿がよく見られました。

アカアシカツオドリ

学名: *Sula sula*

英名: Red-footed Booby

■ 撮影 野口 好博

■ 撮影場所 東京都小笠原村沖



9 月

引潮で最初に現れた干潟にダイシャクシギが真っ先に飛来。ハウロクシギは未だ来ない。真っ赤な夕陽を背景にツーショット狙いで、夕陽が沈む前に飛来してくれと焦る中、待望のハウロクシギは飛来した。続いて、嬉しいミヤコドリの群が一斉に着地する。ツーショット、夕陽で紅く染まった背景、群の一斉着地等々三拍子揃ったのタイミングに恵まれた。

ミヤコドリ

学名: *Haematopus ostralegus*

英名: Oystercatcher

ダイシャクシギ

学名: *Numenius arquata*

英名: Eurasian Curlew

ハウロクシギ

学名: *Numenius madagascariensis*

英名: Far Eastern Curlew

■ 撮影 野村 明

■ 撮影場所 三重県 津市



10 月

深まりゆく秋の山中湖湖畔。撮影したのは 10 月 31 日。木々の葉は黄葉しきって、あとは葉を落とすのみの静かなひと時。ヤマガラやゴジュウカラが何か食べるものを探して忙しく動きまわっていた。

ヤマガラ

学名: *Poecile varius*

英名: Varied Tit

■ 撮影 吉田 幸弘

■ 撮影場所 山梨県 山中湖村



ルリビタキ

学名: *Tarsiger cyanurus*

英名: Red-flanked Bluetail

11月

北海道では10年にいちど位でしょうか、冬の訪れが早い年があつて、樹木が彩ずき紅葉の世界に変貌します。

その時期に鳥たちが山麓から低地に下りて来ました、その出会いに恵まれました。

■ 撮影 石橋 孝継

■ 撮影場所 北海道札幌市



トラツグミ

学名: *Zoothera dauma*

英名: Scaly Thrush

12月

残り少ないナナカマドの実を啄みに数日前からやって来るトラツグミ、朝夕と日に何度か姿を見せてくれます。夕刻頃に合わせて行って見ると、既にナナカマドの実を啄んでいた。一頻り食べると、次は枝の雪を食べに来ました。緊張感が解けたのか、しばしの休憩です。日が短くなった冬の日の黄昏時が似合う印象的な鳥でした。

■ 撮影 内藤 滋

■ 撮影場所 北海道 札幌市

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

Japanese Society for Preservation of Birds

〒166-0012

東京都杉並区和田 3-54-5 第10田中ビル3階

TEL ◇ 03-5378-5691 FAX ◇ 03-5378-5693

HP ◇ <http://www.jspb.org/>